

「言葉の重要性」

260521

三河教育研究会 <教育講演会>

令和8年5月20日(水)

演 題 「スマホネイティブ世代が抱える生きづらさとは何か」

講 師 石井 光太 氏 (ノンフィクション作家)

○一般の子どもの国語力は失われているか。

- ・「やばい、えぐい」「面倒、終わった」といった極端な表現をする。
- ・自分の気持ちや意志を言葉で表現することができない。
- ・相手の気持ちを考えられず、傷つけたという意識がない。
- ・その場の空気や、文章の行間を読めない。
- ・自己紹介、履歴書の作成ができない。
- ・言葉で人間関係を築くことが下手なので、すぐにぶつかり、挫折する。
- ・一方的に自分の希望だけを押し付け、かなわないと相手を恨む。
- ・集団でいることに「アツ」を感じる子ども。

○国語力劣化の要因

- ・未熟な子供たち →親子未分離、甘え、感情コントロールができない。
- ・短文テキストコミュニケーション →SNSによるコミュニケーションの弊害
- ・過敏すぎる子供たち →確認せず、自分の中で被害妄想を膨らます。答えをSNSやAIに求める。
- ・現実逃避 →困難に直面した際の「感情ミュート」、ゲーム、SNS。先送り
- ・手を差し伸べられない大人たち →「多様性」「個性の尊重」という言い訳。「弱者ビジネス」の拡大。

○言葉を失った人たちの問題

- ・「言葉をうまく使えないと、社会の中で上手に振る舞うことができない。それゆえ、様々な壁にぶつかって「つまづき体験」「傷つき体験」をしてしまう。そこで生まれるのが、“心のがん”
- ・“心のがん”の正体 「やっても意味がないから」「どうせうまくいかない」「私は低スペックだから」→壁を乗り越えようとするのではなく、乗り越えることをあきらめる。

○問題解決するには「言葉」が重要

- ・状況が厳しければ厳しいほど、細かく言語化する必要がある。普段から言語化していれば、だんだんと言語化が得意になる。
 - ◆状況を的確に考える 「今はどういう状況にあるのか」
 - ◆自分の感情や意志と向き合う 「私はどうしたいのか」
 - ◆他者の感情や意見を想像する 「あの人はどう思っているのか」
 - ◆対策を考える 「問題を解決するにはどうすればいいのか」
 - ◆味方を作る 「状況を周りの人に説明し、味方になってもらうことでパワーアップする」

○「自尊感情」と「リアルの居場所」

- ・基本的自尊感情 →人と一緒にする「共有体験」。この自尊感情は、特に小中学校の段階で増やしていかなければいけないもの。(※本校が大事にしている全校で一つのものを作り上げる体験活動)
- ・リアルの居場所 →SNSにせよ、ゲームにせよ、どちらも仮想世界。リアルに居場所があれば、仮想世界へ行っても戻ってこられる。しかし、リアルに居場所がなければ、そこがすべてになってしまう。

○なぜ今、国語力を身につけるのか

- ・学生時代までは、「言語化」を手伝ってくれる人が周りにいる。しかし、社会に出た瞬間から、あらゆることを自分で言語化して物事を切り開いていかなければならない。特に今後は、以下のことからより高いレベルの国語力が必要になる。「情報化」「グローバル化」「多文化共生」「価値観の多様化」「コンプライアンスの厳格化」
- ・だからこそ、今のうちに言葉の重要性をしっかりと身につけ、社会に出た時に困らないように言語化の練習をしていく必要がある。
- ・言葉によって自己を確立し、言葉を尽くして他者と対話をし、言葉によって他者と手を取り合って生きていくことが求められる。それが「生きやすい人」と「生きにくい人」をわける。